

授業科目	コンピュータ概論		単位/時間	176時間		
開講学科等	情報システム学科1年		担当教員	橋本 貴之		
授業の目的・テーマ	コンピュータの「基礎理論に関する知識」について幅広く学習する。					
授業の到達目標	以下の試験に合格することを到達目標とする。 サーティファイ情報処理技能認定試験2級1部、3級 国家試験：基本情報技術者試験 午前免除試験					
授業の計画	1	2h	テキストⅠ 基礎理論(1-1~1-2)	26	2h	テキストⅠ 確認問題演習 その6
	2	4h	テキストⅠ 基礎理論(1-3~1-6)	27	2h	テキストⅡ データベース(2-1~2-3)
	3	3h	テキストⅠ 基礎理論(1-7~1-10)	28	2h	テキストⅡ データベース(2-4~2-6)
	4	3h	テキストⅠ 基礎理論(1-11~1-13)	29	3h	テキストⅡ データベース(2-7~2-10)
	5	2h	テキストⅠ 確認問題演習 その1	30	2h	テキストⅡ データベース(2-11~2-12)
	6	2h	テキストⅠ 確認問題演習 その2	31	3h	テキストⅡ データベース(2-13~2-15)
	7	1h	テキストⅠ アルゴリズムとプログラミング(2-1~2-6)	32	2h	テキストⅡ 確認問題演習 その1
	8	1h	テキストⅠ アルゴリズムとプログラミング(2-14~2-17)	33	3h	テキストⅡ ネットワーク(3-1~3-5)
	9	3h	テキストⅠ コンピュータ構成要素(3-1~3-3)	34	3h	テキストⅡ ネットワーク(3-6~3-10)
	10	3h	テキストⅠ コンピュータ構成要素(3-4~3-6)	35	2h	テキストⅡ ネットワーク(3-11~3-13)
	11	3h	テキストⅠ コンピュータ構成要素(3-7~3-8)	36	2h	テキストⅡ 確認問題演習 その2
	12	3h	テキストⅠ コンピュータ構成要素(3-9~3-10)	37	3h	テキストⅡ セキュリティ(4-1~4-3)
	13	2h	テキストⅠ コンピュータ構成要素(3-11~3-12)	38	3h	テキストⅡ セキュリティ(4-4~4-6)
	14	2h	テキストⅠ 確認問題演習 その3	39	3h	テキストⅡ セキュリティ(4-7~4-9)
	15	2h	テキストⅠ 確認問題演習 その4	40	2h	テキストⅡ 確認問題演習 その3
	16	2h	テキストⅠ システム構成要素(4-1~4-3)	41	51h	問題演習
	17	2h	テキストⅠ システム構成要素(4-4~4-5)	42	28h	基本情報 午前免除対策
	18	2h	テキストⅠ システム構成要素(4-6~4-7)	43		
	19	2h	テキストⅠ 確認問題演習 その5	44		
	20	2h	テキストⅠ ソフトウェア(5-1~5-3)	45		
	21	2h	テキストⅠ ソフトウェア(5-4~5-5)	46		
	22	2h	テキストⅠ ソフトウェア(5-6~5-7)	47		
	23	4h	テキストⅠ ソフトウェア(5-8~5-11)	48		
	24	3h	テキストⅠ ソフトウェア(5-12~5-13)	49		
	25	3h	テキストⅠ ハードウェア(6-1~6-3)	50		
授業の方法	講義を中心に行う。後半では問題演習を行い、全体的な理解度を高める。					
テキスト	TAC 基本情報技術者 試験対策テキストⅠ【ベーステクノロジー編】 TAC 基本情報技術者 試験対策テキストⅡ【システムの利用と開発編】					
参考文献	TAC午前対策問題集、サーティファイ情報処理技術者能力認定試験2級、3級問題集					
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○	
実務経験	システムエンジニアとして、防衛・自治体関連のシステム開発に従事。					
実務経験の活かし方	テキストの表現では理解しがたいテーマについて、実例を用いて理解させる。また、実務経験をもとに必要性や活かし方を説明していく。					
履修上の注意事項	復習を行うこと。また授業中に解いた問題は、複数回解き直すこと。					

授業科目	プログラミング		単位/時間	69時間		
開講学科等	情報システム学科1年		担当教員	篠原 章彦		
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験で出題される擬似言語を学び、処理の流れを把握しプログラムの流れを理解出来るようにする。各種検定に出題される擬似言語の問題に対応するための基礎的な力を養う。					
授業の到達目標	基本情報技術者試験科目Bで出題される擬似言語の問題を読解できる力を身に付ける。					
授業の計画	1	1h	アルゴリズムとは何か	26	2h	キュー
	2	2h	変数と定数	27	2h	ハッシュ表
	3	2h	基本制御構造その1 順次と分岐	28	2h	木
	4	1h	変数どうしの内容の交換	29	2h	2分探索木
	5	2h	基本制御構造その2 繰返し	30	2h	ヒープ
	6	2h	繰返しを用いた簡単な処理	31	2h	木の巡回
	7	2h	引数と返却値	32	1h	B木
	8	2h	配列と繰返し処理	33	1h	グラフ
	9	2h	2次元配列	34	1h	最短経路探索
	10	2h	計算量	35	1h	オブジェクト指向の基礎知識
	11	2h	最大値・最小値	36	1h	オブジェクト指向を活用したプログラム
	12	2h	線形探索	37	1h	ファイル処理
	13	2h	2分探索	38	1h	ファイルの併合
	14	2h	選択法	39	1h	ファイルの突合せ
	15	2h	交換法	40	1h	コントロールブレイク
	16	2h	挿入法	41		
	17	2h	再帰	42		
	18	2h	クイックソート	43		
	19	2h	その他の整列アルゴリズム	44		
	20	2h	文字列の照合	45		
	21	2h	文字列の置換	46		
	22	2h	文字列の圧縮	47		
	23	2h	データ構造の基礎知識	48		
	24	2h	リスト	49		
	25	2h	スタック	50		
授業の方法	講義を中心に行う。練習問題実施及び解説を反復し、理解度を高める。					
テキスト	基本情報技術者 試験対策テキストIV【アルゴリズム編】					
参考文献	基本情報技術者科目B試験対策問題集【TAC】他					
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1.出席率 2.授業態度 3.小テスト及び期末テスト					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○	
実務経験	金融機関等のシステム設計・開発・保守の経験を有する。					
実務経験の活かし方	プログラミングする上で配慮すべき点などを経験をふまえて具体的に説明する。					
履修上の注意事項	板書を書き写すだけでなく、授業を通して各々が理解していくこと。					

授業科目	システム開発		単位/時間	24時間	
開講学科等	情報システム学科 1年		担当教員	橋本 貴之	
授業の目的・テーマ	コンピュータの「システム開発分野に関する基礎知識」について学習する。				
授業の到達目標	以下の試験に合格することを到達目標とする。 サーティファイ情報処理技能認定試験 2級 1部、3級 国家試験：基本情報技術者試験 午前免除試験				
授業の計画	1	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-1)	26	
	2	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-2)	27	
	3	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-3)	28	
	4	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-4)	29	
	5	2h	テキストⅡ ヒューマンインタフェースとマルチメディア(1-1～1-4)	30	
	6	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-5, 5-6)	31	
	7	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-7)	32	
	8	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-8)	33	
	9	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-9)	34	
	10	2h	テキストⅡ システム開発技術(5-10, 5-11)	35	
	11	2h	テキストⅡ ソフトウェア開発管理技術(6-1～6-3)	36	
	12	2h	テキストⅡ ソフトウェア開発管理技術(6-4～6-5)	37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義を中心に行う。				
テキスト	TAC 基本情報技術者 試験対策テキストⅡ【システムの利用と開発編】				
参考文献	TAC午前対策問題集、サーティファイ情報処理技術者能力認定試験2級、3級問題集				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験	システムエンジニアとして、防衛・自治体関連のシステム開発に従事。				
実務経験の活かし方	テキストの表現では理解しがたいテーマについて、実例を用いて理解させる。また、実務経験をもとに必要性や活かし方を説明していく。				
履修上の注意事項	復習を行うこと。また授業中に解いた問題は、複数回解き直すこと。				

授業科目	情報管理と情報戦略		単位/時間	72時間	
開講学科等	情報システム学科1年		担当教員	中川 隆	
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験の範囲、マネジメントとストラテジについて、各種技法と計算方法、用語を理解する。				
授業の到達目標	プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査、システム戦略、経営戦略、企業活動、法務の用語の意味を説明できる。各種技法の計算ができる。				
授業の計画	1	3h	プロジェクトマネジメントとは、PMBOKの概要、統合マネジメント、スコープマネジメント	26	
	2	3h	タイムマネジメント	27	
	3	3h	コストマネジメント、品質マネジメント	28	
	4	3h	リスクマネジメント、調達マネジメント、サービスマネジメント、システム運用の基礎	29	
	5	3h	サービス運用とサービス移行のプロセスと機能	30	
	6	3h	サービス運用とサービス移行のプロセスと機能、サービス戦略とサービス設計のプロセス1	31	
	7	3h	サービス戦略とサービス設計のプロセス2、システム監査の概要、システム監査の実施	32	
	8	3h	情報システム戦略、ビジネスモデルとエンタープライズアーキテクチャ	33	
	9	3h	業務プロセス、ソリューションビジネス、システム活用促進・評価	34	
	10	3h	要件定義、経営戦略の基礎知識	35	
	11	3h	経営戦略手法、マーケティング	36	
	12	3h	マーケティング	37	
	13	3h	ビジネス戦略、経営管理システム	38	
	14	3h	技術開発戦略、ビジネスシステム、エンジニアリングシステム	39	
	15	3h	e-ビジネス、経営・組織論、IEとOR	40	
	16	3h	IEとOR	41	
	17	3h	IEとOR、品質管理の技法	42	
	18	3h	品質管理の技法、財務会計	43	
	19	3h	財務会計、減価償却とリース、損益分岐点分析	44	
	20	3h	損益分岐点分析、原価の計算	45	
	21	3h	知的財産権、セキュリティ関連法規	46	
	22	3h	労働関連・取引関連法規、その他の関連法規	47	
	23	3h	前期試験復習	48	
	24	3h	前期試験復習	49	
	25			50	
授業の方法	講義				
テキスト	TAC 基本情報技術者 試験対策テキストⅢ マネジメントと戦略編				
参考文献	なし				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、全体で判断する。 1. 授業態度 2. 期末テスト				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験	プログラマー・SEとしてIT企業で勤務し、開発・保守業務に携わる。				
実務経験の活かし方	マネジメントやストラテジ技術が仕事の中でどのように使われているか具体例を挙げ説明する。				
履修上の注意事項	略語は英語のフルスペルと訳した意味の両方を覚える。配布する練習問題を保存していくこと。				

授業科目	パソコン実習 I 【前期】		単位/時間	24時間	
開講学科等	情報システム学科 1 年		担当教員	橋本 貴之	
授業の目的・テーマ	様々なビジネスシーンで使用される E x c e l の基本を学び、活用できるよう指導する。				
授業の到達目標	サーティファイ E x c e l 表計算処理技能認定試験 3 級の合格を目指す。(後期に受験)				
授業の計画	1	2h	1 章 E x c e l の基礎知識	26	
	2	3h	2 章 E x c e l 入門	27	
	3	3h	3 章 ワークシートの活用 (1)	28	
	4	3h	4 章 ワークシートの活用 (2)	29	
	5	3h	5 章 グラフ (1)	30	
	6	3h	6 章 グラフ (2)	31	
	7	3h	7 章 データベース	32	
	8	4h	8 章 E x c e l の応用	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	実技を中心に行う。				
テキスト	30時間でマスター Windows10対応 Excel2016				
参考文献	サーティファイ E x c e l 表計算処理技能認定試験 3 級 問題集				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験	システムエンジニアとして、防衛・自治体関連のシステム開発に従事。				
実務経験の活かし方	テキストの表現では理解しがたいテーマについて、実例を用いて理解させる。				
履修上の注意事項	授業中に理解ができなかった内容は、質問する等、次回の授業までに解決すること。				

授業科目	パソコン実習 I 【後期】		単位/時間	68時間		
開講学科等	情報システム学科 1 年		担当教員	橋本 貴之		
授業の目的・テーマ	様々なビジネスシーンで使用される E x c e l の基本を学び、活用できるよう指導する。					
授業の到達目標	サーティファイ E x c e l 表計算処理技能認定試験 3 級の合格を目指す。					
授業の計画	1	2h	練習問題 1	26	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習
	2	2h	練習問題 1 解説	27	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習
	3	2h	練習問題 2	28	3h	課題作成
	4	2h	練習問題 2 解説	29	3h	課題作成
	5	2h	練習問題 3	30	4h	課題作成
	6	2h	練習問題 3 解説	31	4h	課題作成
	7	2h	模擬問題 1	32		
	8	2h	模擬問題 1 解説	33		
	9	2h	模擬問題 2	34		
	10	2h	模擬問題 2 解説	35		
	11	2h	模擬問題 3	36		
	12	2h	模擬問題 3 解説	37		
	13	2h	模擬問題 3	38		
	14	2h	模擬問題 3 解説	39		
	15	2h	模擬問題 4	40		
	16	2h	模擬問題 4 解説	41		
	17	2h	模擬問題 5	42		
	18	2h	模擬問題 6 解説	43		
	19	2h	模擬問題 7	44		
	20	2h	模擬問題 7 解説	45		
	21	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	46		
	22	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	47		
	23	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	48		
	24	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	49		
	25	2h	模擬試験プログラムによる本番形式練習	50		
授業の方法	実技を中心に行う。					
テキスト	30時間でマスター Windows10対応 Excel2016					
参考文献	サーティファイ E x c e l 表計算処理技能認定試験 3 級 問題集					
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○	
実務経験	システムエンジニアとして、防衛・自治体関連のシステム開発に従事。					
実務経験の活かし方	テキストの表現では理解しがたいテーマについて、実例を用いて理解させる。					
履修上の注意事項	授業中に理解ができなかった内容は、質問する等、次回の授業までに解決すること。					

授業科目	C言語 I【前期】		単位/時間	52時間	
開講学科等	情報システム学科 1年		担当教員	篠原 章彦	
授業の目的・テーマ	C言語の文法や基本的なプログラムの作成方法を学ぶ。				
授業の到達目標	サーティファイC言語プログラミング能力認定試験 3級程度の問題を読解できる力を身に付ける。				
授業の計画	1	2h	C言語とは	26	
	2	2h	変数の宣言と型	27	
	3	2h	変数の代入	28	
	4	3h	標準入力と標準出力①	29	
	5	3h	算術演算と型変換	30	
	6	2h	論理演算子	31	
	7	3h	ビット演算子	32	
	8	3h	1次元配列と2次元配列	33	
	9	3h	判断命令 if・三項演算子	34	
	10	2h	繰返し while	35	
	11	2h	繰返し do-while	36	
	12	2h	繰返し for	37	
	13	3h	文字列操作	38	
	14	3h	標準入力と標準出力②	39	
	15	3h	関数の基本・マクロ	40	
	16	3h	標準ライブラリ関数	41	
	17	3h	構造体・列挙体・共用体	42	
	18	5h	ポインタ	43	
	19	3h	ファイル操作	44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	課題に沿ったプログラム作成など、実習を中心とする。				
テキスト	無し				
参考文献	情報処理試験合格へのパスポート Cプログラミング【ウィネット】				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 小テスト及び期末テスト				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験	金融機関等のシステム設計・開発・保守の経験を有する。				
実務経験の活かし方	プログラミングする上で配慮すべき点などを経験をふまえ具体的に説明する。				
履修上の注意事項	口頭での説明が多くなるためメモを取るよう心がけること。				

授業科目	C言語 I 【後期】		単位/時間	26時間	
開講学科等	情報システム学科 1年		担当教員	篠原 章彦	
授業の目的・テーマ	実機での実習を中心に行うことで、前期中に習得したC言語の知識・技術をより具体的なものにする。				
授業の到達目標	標準的な統合開発環境 (IDE) の操作方法及び、プログラミングの作法を習得する。				
授業の計画	1	1h	VisualStudio操作方法	26	
	2	1h	データ型・変数と標準入出力 実習①	27	
	3	2h	データ型・変数と標準入出力 実習②	28	
	4	2h	演算子(計算処理) 実習	29	
	5	2h	if文 実習①	30	
	6	2h	if文 実習②	31	
	7	2h	while・for・do-while文 実習①	32	
	8	2h	while・for・do-while文 実習②	33	
	9	2h	while・for・do-while文 実習③	34	
	10	1h	switch・break・continue文 実習①	35	
	11	1h	switch・break・continue文 実習②	36	
	12	2h	配列 実習	37	
	13	2h	2次元配列 実習	38	
	14	2h	配列(文字列) 実習①	39	
	15	2h	配列(文字列) 実習②	40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	課題に沿ったプログラム作成など、実習を中心とする。				
テキスト	無し				
参考文献	情報処理試験合格へのパスポート Cプログラミング【ウィネット】				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、全体で判断する。 1. 授業態度 (20%) 2. 授業進捗 (20%) 3. 期末テストまたは課題提出 (60%)				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験	金融機関等のシステム設計・開発・保守の経験を有する。				
実務経験の活かし方	プログラミングする上で配慮すべき点などを経験をふまえて具体的に説明する。				
履修上の注意事項	口頭での説明が多くなるためメモを取るように心がけること。				

授業科目	Windows利用技術 I		単位/時間	14時間	
開講学科等	情報システム学科 1年		担当教員	坂巻 勇	
授業の目的 ・テーマ	コンピュータを構成する各パーツの名称や役割・構造を理解する。				
授業の 到達目標	コンピュータの性能調査や、Windowsパソコンの自作等ができるレベルを目標とする。				
授業の 計画	1	2h	授業内容説明・パソコンの構成について	26	
	2	2h	パソコンを構成するパーツ・CPUについて	27	
	3	2h	マザーボードについて	28	
	4	2h	メモリについて	29	
	5	2h	HDD/SSDについて	30	
	6	2h	光学ドライブ・ビデオボード・ケース等について	31	
	7	2h	各種周辺機器について	32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義を中心に行う。				
テキスト	無し				
参考文献	intel 及び Microsoft 等のホームページ など				
評価の方法 や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト				
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○	
実務経験	IT企業でシステムエンジニアとしてシステム設計・構築を担当				
実務経験の 活かし方	実際に企業で行われているシステム開発・管理の実例を交えて講義を行う。				
履修上の 注意事項	口頭での説明が多くなるため、メモを取ることが重要である。				

授業科目	プレゼンテーション I		単位/時間	48時間	
開講学科等	情報システム学科 1年		担当教員	篠原 章彦	
授業の目的・テーマ	標準的なプレゼンテーションツールであるMicrosoftPowerPointの操作方法、資料・スライドの作成方法、プレゼンテーション時における作法を習得する。				
授業の到達目標	意図に即した内容構築と効果的なプレゼンテーションができるようにする。				
授業の計画	1	4h	テキスト第2章 PowerPointを使ったプレゼンテーション	26	
	2	4h	テキスト第3章 プレゼンテーションのテクニック	27	
	3	4h	自己紹介ストーリー作りシート説明	28	
	4	4h	自己紹介ストーリー作りシート作成①	29	
	5	4h	自己紹介ストーリー作りシート作成②	30	
	6	4h	自己紹介ストーリー作りシート作成③	31	
	7	4h	自己紹介プレゼンテーション資料作成①	32	
	8	4h	自己紹介プレゼンテーション資料作成②	33	
	9	4h	自己紹介プレゼンテーション資料作成③	34	
	10	3h	プレゼンテーションの実施① 10分×10人	35	
	11	3h	プレゼンテーションの実施② 10分×10人	36	
	12	3h	プレゼンテーションの実施③ 10分×10人	37	
	13	3h	プレゼンテーションの実施③ 10分×9人	38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義後、学生一人一人が課題に沿ったプレゼンテーション内容を組み立て、発表を行う。				
テキスト	30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint				
参考文献	なし				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 出席率 2. 授業態度 3. プレゼン内容				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験	金融機関等のシステム設計・開発・保守の経験を有する。				
実務経験の活かし方	会議等で実際どのようなプレゼンテーションが行われているのか、具体的にイメージできるようにする。				
履修上の注意事項	自分の将来に直結する科目であるため、真剣に受講すること。				

授業科目	データベース I	単位/時間	21時間		
開講学科等	情報システム学科 1 年	担当教員	坂巻 勇		
授業の目的 ・テーマ	関係データベースで必要となる基本的なSQL文を習得する。				
授業の 到達目標	SQLの基本的な文法を習得し、データベース操作ができるようになる。 前半は講義形式で行っていき、後半からは演習を行っていく。				
授業の 計画	1	3h	データベースとは 正規化について①	26	
	2	3h	正規化について② E-R図について	27	
	3	3h	SELECT文①	28	
	4	3h	SELECT文②	29	
	5	3h	副問い合わせ	30	
	6	3h	INSERT、UPDATE、DELETE文	31	
	7	3h	CREATE TABLE文	32	
	8			33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・演習を中心に行う。				
テキスト	基本情報技術者試験対策Ⅱ				
参考文献	基本情報技術者過去問題				
評価の方法 や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 演習課題				
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○	
実務経験	コンピュータ業界・銀行・生保等のシステムの開発等の経験を有する。				
実務経験の 活かし方	テキストの表現では理解しがたいテーマについて、実例を用いて理解させる。 また、実務経験をもとに必要性や活かし方を説明していく。				
履修上の 注意事項	復習を行うこと。またエラー解決などは、積極的に自己解決の努力をすること。				

授業科目	簿記	単位/時間	71時間		
開講学科等	情報システム学科1年	担当教員	三浦 洋		
授業の目的・テーマ	商業簿記の基礎的知識の習得				
授業の到達目標	全経簿記能力検定3級の取得				
授業の計画	1	簿記とは、仕訳、勘定科目	17	} 合計71H	
		貸借対照表・損益計算書	18		週7H×5回 35H
	2	現金と当座預金、費用と収益	19		週5H×2回 10H
		三分法、掛取引、返品	20		週3H×8回 24H
	3	総勘定元帳への転記	21		週2H×1回 2H
	4	手形、手形貸付金と手形借入金	22		
	5	未収金と未払金、前払金と前受金	23		
	6	仮払金と仮受金、立替金と預り金	24		
	7	商品有高帳	25		
	8	小口現金出納帳	26		
		税金（消費税を含む。）、株式会社の資本	27		
	9	有価証券、株式の発行	28		
	10	貸借対照表と損益計算書との関係（公式）	29		
		決算と残高試算表	30		
	11	精算表、決算整理記入	31		
		売上原価（公式）、減価償却、貸倒れ	32		
12	現金過不足、消耗品	33			
	費用の繰延べと見越し、帳簿の締切り	34			
	三伝票制、売上原価対立法	35			
13	模擬検定Ⅰ、個別問題（第1問対策）	36			
14	模擬検定Ⅱ、個別問題（第2～4問対策）	37			
15	学期末テスト、題（第2～4問対策）	38			
16	模擬検定Ⅲ、個別問題（第5問対策）	39			
授業の方法	講義及び答案練習				
テキスト	全経簿記能力検定3級テキスト及び全経簿記能力検定3級問題集				
参考文献	検定3級過去問題プリント				
評価の方法や基準	平常の授業態度、答案練習結果及び学期末テスト				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○		
実務経験	国税及び地方税の調査・徴収事務				
実務経験の活かし方	企業における会計の基本である簿記の重要性を学ぶ				
履修上の注意事項	電卓は必須、復習は宝、過去検定問題の答案練習は合格への近道				

授業科目	一般常識	単位/時間	24時間		
開講学科等	情報システム学科 1年	担当教員	橋本 貴之		
授業の目的・テーマ	就職試験の筆記試験対策の一環として、とくによく出題される分野の基本的な部分について重点的に問題練習を行なうとともに、生活のなかで役に立つ常識を身につける。				
授業の到達目標	就職活動における筆記試験合格				
授業の計画	1	3h	損益算	26	
	2	3h	料金算	27	
	3	3h	仕事算	28	
	4	3h	速度算	29	
	5	3h	濃度算	30	
	6	3h	推論、命題、図形	31	
	7	3h	〃	32	
	8	3h	復習、後期試験	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	実技を中心に行う。				
テキスト	一般常識 チェック&マスター (実教出版)				
参考文献	各種問題集				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度 3. 期末テスト				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	特になし				

授業科目	国家試験対策(情報セキュリティ)		単位/時間	24時間	
開講学科等	情報システム学科 1年		担当教員	濱渦 昇	
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題される情報セキュリティ分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	2h	OSI基本参照モデル・TCP/IP・LAN間接続装置	26	
	2	2h	IPアドレス、プロトコル、FW	27	
	3	2h	暗号化とデジタル署名	28	
	4	3h	マルウェア	29	
	5	3h	練習問題実施・解説 1	30	
	6	3h	練習問題実施・解説 2	31	
	7	3h	練習問題実施・解説 3	32	
	8	3h	練習問題実施・解説 4	33	
	9	3h	練習問題実施・解説 5	34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	なし				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストⅡ システムの利用と開発編 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(アルゴリズム)		単位/時間	54時間	
開講学科等	情報システム学科 1年		担当教員	森下 浩二	
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題されるアルゴリズムの分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	探索処理	26	
	2	3h	整列処理	27	
	3	4h	文字列操作処理	28	
	4	2h	データ構造 1	29	
	5	2h	データ構造 2	30	
	6	2h	データ構造 3	31	
	7	3h	ハッシュ法	32	
	8	2h	再帰呼び出し	33	
	9	3h	応用整列処理 1	34	
	10	3h	応用整列処理 2	35	
	11	3h	練習問題実施・解説 1	36	
	12	3h	練習問題実施・解説 2	37	
	13	3h	練習問題実施・解説 3	38	
	14	3h	練習問題実施・解説 4	39	
	15	3h	練習問題実施・解説 5	40	
	16	3h	練習問題実施・解説 6	41	
	17	3h	練習問題実施・解説 7	42	
	18	3h	練習問題実施・解説 8	43	
	19	3h	練習問題実施・解説 9	44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	無し				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストIVアルゴリズム編【TAC】 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(オブジェクト指向)		単位/時間	16時間	
開講学科等	情報システム学科1年		担当教員	内藤 正勝	
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験にて出題されるC言語の分野の問題に対して、読解・解答が出来る力を養う。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	1h	オブジェクト指向、オブジェクトとクラス	26	
	2	1h	プログラミングの基本	27	
	3	1h	オブジェクト配列、メンバ変数	28	
	4	1h	複数の数値データ属性をもつクラス	29	
	5	1h	データ構造の表現	30	
	6	1h	文字列操作のクラス	31	
	7	1h	練習問題実施・解説 1	32	
	8	1h	練習問題実施・解説 2	33	
	9	1h	練習問題実施・解説 3	34	
	10	1h	練習問題実施・解説 4	35	
	11	1h	練習問題実施・解説 5	36	
	12	1h	練習問題実施・解説 6	37	
	13	1h	練習問題実施・解説 7	38	
	14	1h	練習問題実施・解説 8	39	
	15	1h	練習問題実施・解説 9	40	
	16	1h	練習問題実施・解説 10	41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・練習問題実施及び解説				
テキスト	なし				
参考文献	基本情報技術者試験対策テキストV プログラミングC言語編【TAC】 基本情報技術者試験本試験問題集【TAC】 他				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	国家試験対策(模擬試験)		単位/時間	24時間	
開講学科等	情報システム学科1年		担当教員	川村 剛久	
授業の目的・テーマ	基本情報技術者試験本試相当レベルの問題を解き、各問題に対する解答時間の配分や、現時点での各分野における理解度を確認する。				
授業の到達目標	基本情報技術者試験合格を目標とする。				
授業の計画	1	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 1	26	
	2	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 2	27	
	3	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 3	28	
	4	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 4	29	
	5	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 5	30	
	6	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 6	31	
	7	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 7	32	
	8	3h	模擬試験 実施・自己採点及び確認 8	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	模擬試験 実施・自己採点及び確認				
テキスト	無し				
参考文献	無し				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1. 模擬試験及び本試験結果 2. 出席率及び授業態度 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	理解を深めるために復習を行うこと。				

授業科目	ビジネス実務 I (担任)		単位/時間	27時間	
開講学科等	情報システム学科 1年		担当教員	篠原 章彦	
授業の目的・テーマ	前期では就職活動に対する意識の向上、目指す業界・職種を知り、自己分析を行う。後期には就職活動の本格化に先立ち、自己PR及び希望する業界・業種・企業への志望動機の組み立て、履歴書の書き方を習得する。				
授業の到達目標	後期より本格化する就職活動に対して迅速に意思決定を行い、出遅れのないスタートができるようにする。				
授業の計画	1	3h	社会人になるために必要な力	26	
	2	3h	会社の仕組み	27	
	3	3h	県外・県内の就職	28	
	4	2h	業種・職種の紹介	29	
	5	1h	職種紹介①(システムエンジニア・プログラマー)	30	
	6	1h	職種紹介②(オペレータ)	31	
	7	1h	職種紹介③(カスタマーエンジニア)	32	
	8	1h	職種紹介④(ネットワークエンジニア)	33	
	9	1h	職種紹介⑤(セールスエンジニア・インフラエンジニア)	34	
	10	1h	職種紹介⑥(製造技術・営業・事務)	35	
	11	2h	求人票の見方	36	
	12	3h	履歴書 自己PR 作成	37	
	13	3h	履歴書 志望動機 作成	38	
	14	2h	個人面接・集団面接 実習	39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	講義・ワーク				
テキスト	なし				
参考文献	なし				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価した後、総合的に判断し最終評価をつける。 1. 出席率 2. 授業態度				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	自身の将来を真剣に考えながら授業を受けること。				

授業科目	ビジネス実務 I (マナー等)		単位/時間	34時間
開講学科等	情報システム学科 1 年		担当教員	濱田 恵美
授業の目的・テーマ	人間関係を円滑にするための“知恵”であるマナーの知識を具体的に教えることに加え、演習などを通じて学生の意識を高め、よりよい人間関係を築くために必要なコミュニケーションを身に付けさせることを目的とし、習った知識を日常生活の中で実践することの大切さを徹底させるような授業の進行・運営を心がける			
授業の到達目標	相手を敬い、思いやる気持ちを上手に相手に伝えるためには、どのようにすべきかについても常に考え、配慮ある行動ができる人になれるよう、また社会人に必要なビジネスマナー等を学生のうちに少しでも習得できることで、学生から社会人になることへの不安をなくし、ひいては社会人として自信を持って行動できるよう繋げていくことを到達目標とする			
授業の計画	1	4/14 OR 立ち居振る舞いの基本	26	11/16 就職研修に向けて
	2	4/21 立ち居振る舞いの基本	27	11/16 就職研修に向けて
	3	4/28 立ち居振る舞いの基本	28	11/16 就職研修に向けて
	4	5/12 マナーとは何か	29	1/18 電話応対
	5	5/19 グループワーク	30	1/18 電話応対
	6	5/26 丁寧な言葉遣い	31	1/18 来客応対
	7	6/2 丁寧な言葉遣い	32	1/25 来客応対
	8	6/9 丁寧な言葉遣い	33	1/25 来客応対
	9	6/16 丁寧な言葉遣い	34	1/25 来客応対
	10	6/23 丁寧な言葉遣い	35	
	11	6/30 電話応対	36	
	12	7/7 電話応対	37	
	13	7/14 来客応対	38	
	14	10/19 就職研修に向けて	39	
	15	10/19 就職研修に向けて	40	
	16	10/19 就職研修に向けて	41	
	17	10/26 就職研修に向けて	42	
	18	10/26 就職研修に向けて	43	
	19	10/26 就職研修に向けて	44	
	20	11/2 就職研修に向けて	45	
	21	11/2 就職研修に向けて	46	
	22	11/2 就職研修に向けて	47	
	23	11/9 就職研修に向けて	48	
	24	11/9 就職研修に向けて	49	
	25	11/9 就職研修に向けて	50	
授業の方法	レクチャー・ロールプレイング			
テキスト/参考文献	日本マナー・プロトコール協会 マナー・プロトコールの基礎知識 / ウィネット 実践ビジネスマナー			
評価の方法や基準	出席率・態度・身だしなみ・演習の取り組み方・課題・筆記テスト 複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	金融機関において、受付・来客応対および電話応対等を担当			
実務経験の活かし方	社会人としての必要な心構えやマナーについて、また来客応対や電話応対等の演習に活かす			
履修上の注意事項	挨拶の励行や正しい言葉遣いを身に付けるとともに、適切な態度で授業に臨むことを求める			

授業科目	ビジネス実務 I (就職研修)		単位/時間	29時間	
開講学科等	情報システム学科 1年		担当教員	篠原 章彦	
授業の目的・テーマ	学生の就職に対する意識を高め、意欲をかき立てる。 入社試験形式での個人面接・集団面接練習及び筆記・作文模擬試験を行い、学生が希望する企業の入社試験に対する準備を行う。				
授業の到達目標	希望する業界・職種・企業の就職試験に自信を持って挑めるようにする。				
授業の計画	1	3h	先輩の就職活動(講話)・質疑応答	26	
	2	4h	文字(履歴書)の書き方	27	
	3	3h	個人面接①練習、筆記・作文模擬試験	28	
	4	3h	個人面接① フィードバック	29	
	5	3h	個人面接②練習、筆記模擬試験	30	
	6	3h	集団面接練習、作文模擬試験	31	
	7	6h	個人面接②、集団面接 フィードバック	32	
	8	4h	合同就職セミナー参加	33	
	9			34	
	10			35	
	11			36	
	12			37	
	13			38	
	14			39	
	15			40	
	16			41	
	17			42	
	18			43	
	19			44	
	20			45	
	21			46	
	22			47	
	23			48	
	24			49	
	25			50	
授業の方法	練習(実習)、フィードバック(講義)、セミナー参加				
テキスト	なし				
参考文献	なし				
評価の方法や基準	以下の内容を個別に評価し、総合的に判断する。 1.出席率 2.授業への取り組み状況 ※複数の担当教員が受け持つ科目は、「担当教員ごとの点数×担当教員が受け持つ時間の割合」の合計で計算して評価する。				
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					
実務経験					
実務経験の活かし方					
履修上の注意事項	自分の将来に関わる科目であるため、真剣に臨むこと。				